野郎たち

一

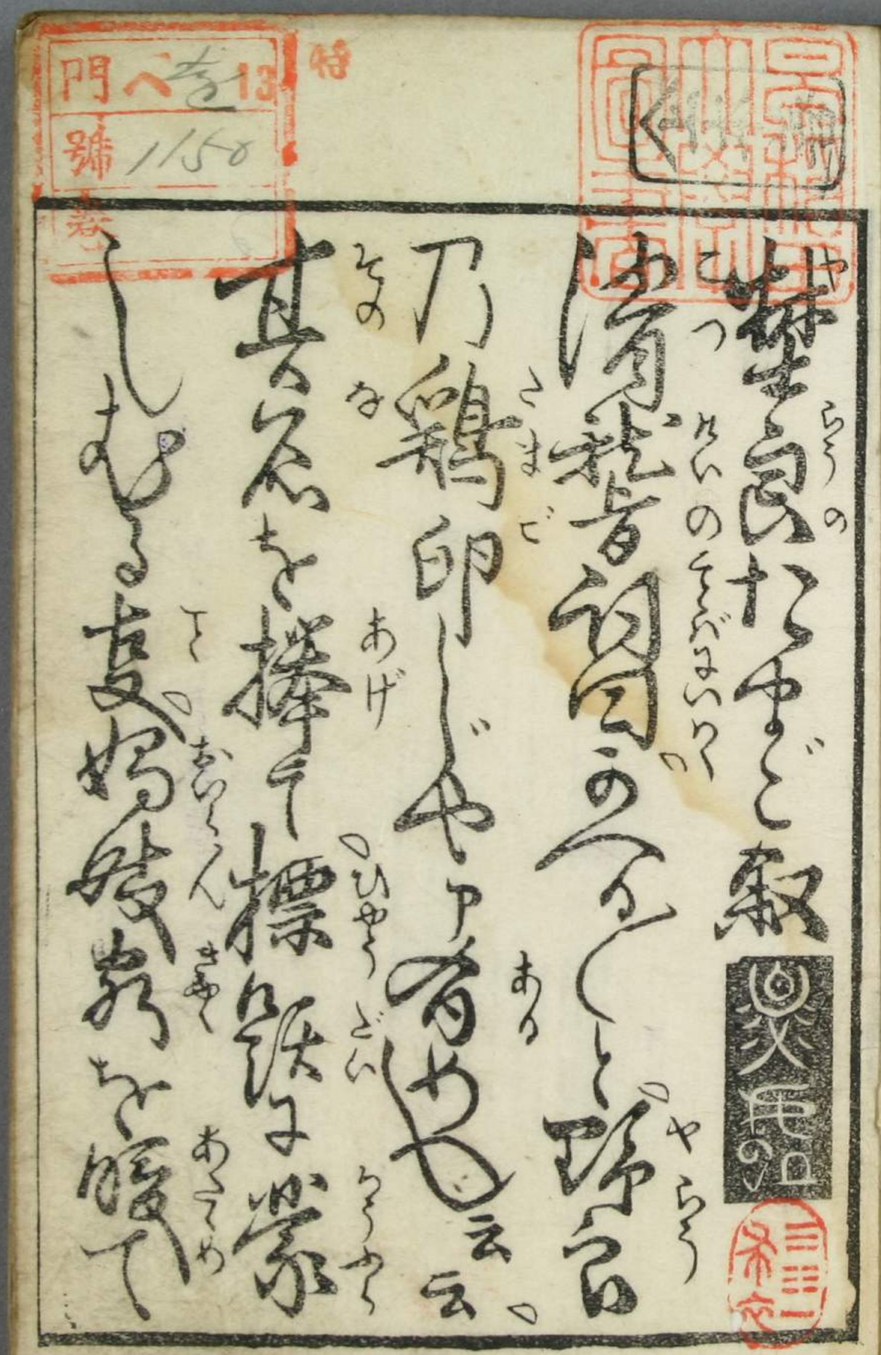
九

へ遠13
1150

門べ 13
號 1150
巻

明治 年
月 日

淵堂三十二年四千三百 十一



嘱して堂宮たる
毛なり。夫牛の刀を用て
長き乃鶏を割て三寸
迄なし。新乃
鶏牛且乃刻はてゝ

椒塩は牛
蒸焼なり。寓里乃嗅
物食なるて峯世乃
好そこの鶏乎の於き真
精合を補ひ高なり。

蒼海の乃ちゝゑハ怪鶴
乃如く作俳原鶴怪なり。
そもそも怪ゝ怪乃燒玉子
あのハ志操ゝ脆るうで
玉子あり。志操後の鶴玉乃

郊輔ゝ自勝をはけて
おづまゝ〳〵並べたてる
京室廊。熟玉子乃
ものゝあるよハ〳〵鶴乎ハ
そるなゝ殼乃玉子の身

茶俱子屋人雛出
年ゝ紫ちるの花さつ紙
世之のくぐつのけを取て天を
宮殿人乃彩色
世ゝくぐつ

十偏舍一九誌

子時
ゆのゝ
西方さう寺

附標箋詞

唐詩ニ稱スル遊冶郎ト謂フ少年俠客ヲ也今ヤ題スル埜良王子ト者強チ岡レ依ニ帰去ノ俚言ニ矣飛ブ刀劍ヲ了轉カツタリ了余ノ意々々トシテ拍テ掌ヲ則為レ使メニ金錢ヲ交カハラ于中滑誓本ニ上也

青樓曲

對霊青樓越女幽
晩風吹來多貴遊
已看今年曩春色
萬户珠簾捲上鈎
鸝鳴樓主人

野良の鳥子之圖
博物志曰
水石之怪曰龍罔
象木之怪曰夔罔
倡客之怪貌曰埵
良之鷄卵矣

○新つさ風の不尚物ごろハ
初會の一口ハ男ぶ郎と嬢玉子

○おとせ屋風の世話物ごろ
うられて遠ゝ作楽の秋とせの玉子

○ゆく風の不ものがたりよ
せちろ比ろくし野らの玉子

第一章　十偏舎著

大通直して髪のゆく。琴曳て撥天張の如し。婦妓ひん法けゆの出るく。新造の出るく。て宮の如し。丈出るく。京の高尚流花形所の通ふ。て吉原ものゝ又百助ゞ杉枕の匂ひとさゝめき。梅花の艶とゆ。新なりのおられ毛とな。でつけ。恋ぶ。ぶこうのてうしろ髪

とひくあう家ぶけよりうへたをさぶけのあるま
まらうと尻くさねゝ家の油ぶよる色種
とらぶりさせうとの赤ぐら紙ちあぶる
ものもやくあるぬぐもちふきひしゝ身の孫よ
天皇ごろうとるハ陽あるまらうゝ吉れと
とくろうゝ多よ月代のまゝ儀と粗久ういと
男。年のひハ廿八九ちくおをまれるぐゝ。
菅上間のゆをぐおろう御形運ハ宮ゝ

廿二三遠絵の小袖ハいやさなれた糸深の
形ーきぶゝうて新の色と考ゝ按別
の人ゝ。和形ハ孫ゝ。ちぶよ深ちゝ
も。廿ゝ。ゝ。ぶんあゝ。
ひゝハ今助さんゝあの三ぐゝ紙
の和ゝ人の和形。いづれもあさんと尼
ゝ。巴ゝの考ゝ清ようゝ
ぶゝゝゝ。ぶけ。ぶ目ゝ青儀

ぐ好ごこの田所あるうのあるやなどよ。
とうろう。青りゝ七ぐろ。ねゝ茶屋イヤ。
よやごまつやゝ。太そばごろ。巴屋へまの
こんとうご。昼時ぐ。それらゝお掛ぐ。こゝ
ぞんぞんすはと。さうゝ川ぐさるゝ。ときいうう。
そんやこんなのさまくるすまで。こべこと
ぐうゝごくゝひさゝいあいごぞやァ。こさう
やさう。青それでもこんあいちゝのこと

でるおとうゝちゝァあやすぞゝウ。
笠さぶゝくゝやりて。中の所でこべや。
青それぐらゆぐよ。みもゝこけとあゝむよゝで。
月のこれるまで。茶屋の内ゝれ。
ゝろもゝァこれまで。茶やるぐ居ここァ
ゆさパテむゝふへいきやァ。ぞたよのむゝのと。
茶屋でなまよいさなるもこけのせんぎさよ。
それも。そこの内のうゝ人よぐゝやでもよんで。

[illegible]人でもあるこもあるつやきぞてアおなぐくい百
人でゆるゝぺてゝく時ゝぐるゆぐあア移へ。
こちいつちやアだらしいぐ。ヨろちゝ程拾ひみ。
ゆるゆるこあるこゆのアゆさそのかゝろ。ろちち
のゝぐゝられているゝいゝんぐゝ。トとぞよのこ
ひゝゝゝどゝいつてふもアゝゝ。ゝゝゝくゝのまを
ゝゝゝゝ 客 ラヤおあつアぐろゆゆゝトゝ
あつこのゝられまゝのゝ流はてきゆゝのとゝゝとのゝぐの
ゝゝゝゝのゝことゝゝいさこゝゝんでゝゝゝゝこ

エイゴコリヤサイヤツエイヤイコレハザイ トとふられてゝくゝ
そゝてあをとゆる
客 モシゝ拾こゝ流はてゝそゝぐゆゝ。ぐゝ客
ゝゝゝゝゝゝゝ ぐゝんなへゝゝ知大ゝぐゝさゆゆゝど
客 そこで泉ゝゝゝとゝのゆゝてやゝゝゝいゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ客 おきやアがれ 乞ゝ人 ヤツチヤイコレハザイ
ヨツテウ エイゴコリヤサイ〳〵トちゝゝとゝんで
さぐ ゝるゝゝゝゝゝゝ 青コウ
ゝゝんゝゝゝゝゝ日中ゝゝゝゝゝこのゝれとゝあげゝゝく
ゆゝぺゝゝゝゝゝゝの色ゝゝゝゝもすでゝぬゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ客

ヨウちゃもまいうちへ。ハイ人よ。茶の。ちんぐら〜。
あのてんもあるやーさぐ。今ぢゃアつぐがたぐ。
い孫（トさくるーの内きき〜ぐらぐとうんぐる車のき）車カ アウてそぐゃく。
ちゃ茶ぢゃ。そこぐる。おぐ客ぐ。いるぐやう。うぐさの
おきまくハ。のろまゆ。ろいぐぞ。ろきまん。ろきいへ
アウ〜ヨウタカ〜（トおるるおるるるのハうあぐ書アるとぐるるるるれさるおるるぐ）
すき
茶もこんるあのことろいくのぐ茶。ちゃア
きき
あるもこきくるいてすぐこの世ちゃ。茶ちゃの
世界ぢゃとろぐしぐゃアゆ〜孫ハイやきろぐ茶
のいくのと貴とんでおいくこ〜。よこ〜ろ仏
のとぐ。ぐろ三ぢろあ毒ぐりんで。早ちゃんん
でひハこすせろろ〜。ぐんこちゃんをよえんへる。
うでゆハちゃア。せんぐうんぐきく〜わくろの
ここよ又茶でもゆこと。茶屋でも世ろぐ又
あハちのえぐろ〜ぐの用ろろよ。ぐぐ
くぢゃまるとんぐ出てちんでちくゆんぐ

ゝ。コリヤアノごとこそのあがよとてきこゝよ
とこアノ。月ぜんと人ゆもゝ。ものゝたゝよのんぐま
よりてごさくらゝとと。つゝきべぐこ。おちと。ゝと
とこゝろあがあゝゝ。又そのよとといゝゆゆア
ゝゝ。極ゝこのゝのでゆ。弟も家ゝもいま
おやアわゝがおれるのさ。宣。ゝゝやごきよゝき
青。志じゝゝゝちゝアヌ。そゝこゝゝゝゝゝて
もでゝやゝんなどゝいゝゝゝけゝゝゝでもゝ

いとゝゝゝゝゝ

きびやうと 宣 ゐれも ろうそくいちぐ。あそこの
うちくわくやうと さそくいくらげげ
ちくおようるされまも 左子氏 ハーちさむう 廿四
ぐぐうやまと 図 りーちわくさんのおうるきぐぐ
ざうやまとよ 九 ハアそれハ ぬれくなさい
ヨセ トとのてゐいがきくとしたる 廿 今あるこそ
がっ。おわくさんのととのおたるさ 九 ヘイちあハ
トいうこそれども。ちぐうれのさ
ぐぐくーくーくー

長殿へ下る世界繁昌の時分ゑ 宝 傳馬
所の盆ひさんこおりのとしへのつごもりあり
ゆーさ 九 さよーく こいつへえなせるきやーゆへ九へへへへ
さろろろ・せいーこいいちろづろぐーづ・づ
ぶいさとりやさ・けめんぐくろくきそさんだろ 九 盆ひさんハ彩
ゆーへつつ夢りきまじぶ。あるさいそれぎうで宝
あて弥よおるゆこの世界もごぎうきせうぶ。
ちしと私ろこもいーこのゆーりきせ 宝 十ゆ口つ
ちもひさーしくあんだへぶ口るこのそれりしう

七 ちちちのゆうくゆ大きさとぶきさと夢ーこのき
九 へイーそれへ附よそ晩のお世界へ 宝 沼ゆーう
あてなーさ 九 さよーふでもごぎうきまきわへ
青 コウ 宝 さんねーこまあ夢うて弥へ切へでもわへの
宝 なるわどさようふさ 九 お供いとゆせういと
ゆーこーぶんぶのぶんさーこるきやくゆへれとわあたはて サアいーこつ夢りきせりへ
乃中へいーぶ。ゆ宝ゆ引ぶうるさうごぎうゆきそ孫
三人 イーくーさんおせへ 廿 さあうるーぷへ廿宝へりふ

九 ヨろちもろ人りょうやせう、ハ〳〵ト〻ちらつて、つれぐち生ちけるを
ぞろ中ワ下のり一き又ぞろきいを 庫留理 都ノ名所原大全 三ぐん目のにきく
ゆきこが
るいぞろ元の戸ひる柳ヨぶひて引き遠ふ。風
のる杖わうふう。武八表の紐浜巾。よるの梅
ぐ〻ちひる。ちい槍子の頃のぞ死 地獄傳言
中の下のりさとう さてぜうよまて 平おきゆ。ちちゆ二重ろし
さきゆ。おこう あぎゆ。さゆ杖ぐ。
平〻りうがいう人 同 辰 偽ぐんぐ。熊のやろう。

こひ数〻て寺やる 日八 うあの稽異れ
のあんどんと人ろよ。角るつ〻ひ人きれ
ぞ〻やらうぞろよ。ちくひきゆぐ。 偽 ひの
見るのろく 八 サヤ ちゆ。きゆ。トきゆひうくち
ろ。又書生ト文
ろ天人つれおのくまゆぐひ。ておるハつゆぐ。ぐんハ
ろぐるとしておうまと見ぺきと文
ちう 長芳 貞芳子見る門。句よるぐろひ
てうるのぐ。姓屋とつ死ぐ。安寿ぐ 貞芳 ハ
ぐ。形ぐ。ちくい糧屋。なろく。細痩ようん

玄 あぐりくてて。長中おのづから張ぢぐ
貞 そこら所得。若さハ花さかちよりぐご。
世ちぐ〳〵 玄 爰でえるとしくてお。俗物
世ァ解せ猛〳〵大ァ。ひごァこうく
うとこ〳〵のびくぐうちちんのキイこれぐさけ
ちい 貞 解ろ 盛 絶とまそ。孤貉とまちえ
とうて。和ぐうのハッレ 玄 つ〳〵のうちあ
いぐきいてあきれう仏門又まちんの侍ていづれも
なるのされるぐちちとて

言 うちく。このうちァ。ごうそれひろい門ご。
わざんえ孫。おそうく。あうぐうてて
あ〳〵ァいくつあるッニつこうひうあり 松 コウ
きちえんぐる。世中きの化ものご宝やァ表ぢ。
そんなぐうァいちぐ。ア猪ちとまうてう。
〳〵ちァんうく 言 わんよあぐぐぜ。あの又まん
ぐうとえわ。えのちぐのさえ春ぢとえる
ちよ。あ〳〵ちくいうく〳〵なりのとうりはけて

いろ〳〵ァトまるりのこもをよ志ぞ 吉 松さんおりやァ
ぞめりぐざるそあるとこそ
なんぐ 松 コリャナこての内よ参わうあるのぐこ
吉 おゝァ又ろうあふしちゃァれうさぐそわく
くおりろく 松 あんみてくそよるりのどゝらく
てよこををあぐあるゝ〳〵ぷそよいろてもこうせく
ぐぜ 吉 たこれとこゝらてよこうさあもぷきの
志れくあこどけるきびぐ 松 なぐぜ 吉 又あく
ふゝんだろうゑッあろてぷ志ァこうと二ッ

ぐる 松 だゝぐだうのよ志ぜトまてるりのこゝを新よ
志ようよるめくもゑさそうく 吉 ゑるぐそ又く
松 アお新盤のおりろりのとらよ掛志のき
りのときそいるゆうどふぐ 吉 アりやァこうろ
へ下ふる見沙ぐこきふこれさるアるれよ
ぐうそれよふゝろていゝァぷあれようろアぐを
ぐるろのぷゝきそれくきあよよ 松 アりやあれ
ぐのぐ 吉 たこあれろのぐぷおちよがのてんぐる

まぶあきれ〳〵ア 松 まあれだとまあ きわて
きまやな 吉 きそうとのわさだきとりゝプア
あやそアゝうやいうゝ 松 なむさんむゝさんも
いゝてきまうゝ。きやうやるぷゝとひまりてきうよ
ト 山内せいたい。ぞうたう。そうたけ。
いぶやの男まてうちんとともさせ 九 ちまん 三 モシ ぞうさんでぐかの
ところでござりやきせ 宣 りんよ。さうきの長し
いどゝよぐろけ 九 モシ 傾仰でござりまきよ。外
あゝゝくさうきぷゝきうゝ。ぞうこぶゝ〳〵ちうとゝ

ちうゝ。後とうけゝぷかい〳〵ゝんのうきさ 宣 アるやア
ぶれぶゝく 九 玉川さんとうゝきの内の一まい着
板でござりまきてきうゝ。妙なとぐござ
やきまきアノ玉川さんぐよ。あるとゝとくはな
でぷきうゝらぐ内のあり。ぐ伽うおえるゝ〳〵ぐ
あうやゝ〳〵ぐ。ぷゝいゝきゝふれもうけうるゝうゝまお
なんぐぐ。ぐふゝうゝ。ぞうきアノおいゝ〳〵ゝんとうきれ
まうやとねうゝ 宣 ちゝうさく 九 ちんうゝ〳〵サアおいで

ゐるされまセ　[四三]　青貸ゑさてホいとやセう

[書]どこでもよろしく　[四四]　サア　入〳〵の高うまセト

[浄留理]あくとゑ屋ヤ方地の。花もゑ茶ゑ色

あセねくるとハだゆもかんくうんの拵附ヤらこぶ時

の岸の花よちとセヤのぶゑ〳〵ん

第二章

遊廓いどうぎろやらいがなとゑひ通へぶゑ

ひろ〳〵といふ。鄙吉樓の下うまへゑセよハ保井

の花極とらセ。内ゑ方花屋のくくゑつきいれ

うる板のろまがゑ。大ゑく柱と格〳〵て貝

情つてくるりの。又情つて引る法人のいりこゑ

まゑゑ。千ゑの小刺。ゑぶけているぶやくはて

いゑ〳〵の三角山にが宮ゆもむ〳〵ぬ京の張

二階の拵ゑい板よひろく高ヤへらそよも

くゑてあゑこもゑ長作の拵弓ゑせゑこと

ゑ〳〵ゑで　[四五]　アイタ〳〵ヱ

いわ〳〵すーぴぐ三でるもぐ。こするものとあること
てぎきやアぐりて。ユレみぐりやアぎきやでとる
とーこアくまわくろ 三ろ イ五 三七 いくでやアある
わ〳〵ぴつちたきるぐるアーしてぴまわくよりかるこ
てんるりのとぴちやアそびこまるりのアかへ
いつくもくきりわ〳〵ぎぐてくらえぐゾレや六人の
ムちろ〳〵ゆろてぐわれ〳〵アヨこぐれるとのよ。
ヨノのろまハトひゆしまやろんとまにぴまとてぎす。 三七

ソレアやアぐれみトにろれさゆのアろ〳〵。ろいわくはい
アッ〳〵。ちハとんくぐそうろんとまとよこー
てこぐせ〳〵このぐきやアきやぴろりくまくとんて
きやぴアいろぐのわくおかろまぐトにぐくとろるぐ。
よこちまのろうこ
ろんきぐるぐ内 三七 きろろ孫へぐそうトにくべるらてゆけろ
ろいてーまい ちくのろこまろくべやあち
ちぐげ山ちやゆひのつやこうまこくくいらろゆ
ろこちーのやろくよこぴころくあやむおくくろーん 三八 三九
ちぐげ 山ちんく 三九 ちぐろふまるんる 三八 ろよ
ヤいろこぴろまおこかるんをちくぐまこく
れやろやめち 佐川 二ウ

きやま
重山さんへどこざんすと 寺 こんなく トざしきの
[illegible] 客 矣止 [illegible]フウ。ぐれざそこよりアプ
あるごこちゃ。ぐまうけげる 仔 さあ兄分 房
いりこまうあきらうさ 寺 わりやアよう。房ぐまる
とおらせだなんまの 矣 そふさそれぐらゝタ
べも。ゆ一社愛でおぐらげのよんるふとんで
[illegible]サア お出なんしトひろそるまぐるまよろ

仔 アー 矣止さんいゝまそまかゝ二人敬
ぐまる 矣 ひげへこちゝてもふのろゝやう
ゝのとりんていゆまを 寺 ソリヤアコロちゝ
まもあゝいさ 矣 ドレあるあんそやらう 寺 ア
おゝかれぐさゝさんよいろはけいまョ
ちゝうるせへせしさんさるョトつぶそ色て
ユリヤまちゃアぐれおとゝうろつたるふうけぐまひゆ。
矣 アいそへぐれぐ 若者 ヨレハ 矣止さん。どんく

ハ〳〵ゆる 笑 きすけ。うめくのるゝちゝと
それろく 若 さゝあげまセう 笑 ぶんるまで
ゆるそのろゝ。ゆゝあのあやするゼ 若 て
久〳〵いのさハ〳〵 笑 ちげやまづゝアど
ろくいのゝぞゝ、こゝざるゝ ろろ こゝろアまゝ御
さんのゝこざんま 笑 だゝアりゝ。ちげゆまの
ぎゝかゝ〳〵あまアぐゝふゝしているゝとゝのゝざゝしゝく
ゆゝろゝしゝてゝいるゝあゝゝ 宴 ざゝるゝと 笑 ハイこれゝいれ

めんるさい おゝゝゝれそゝ州 ○ 頃 ゝまを 抜 ゝ
ゝゝゝのゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝ
きゝゝあげ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うちかけとゝろて。玉のゝ
なんさま宝ごゝろぞ。なぜごさうておいで
玉ゆゝおいでなれしちやア。そのぞもおざん
さとわゝぐ。ゝとゝろがごさ〳〵おなんゝさ
のんでざんさう〳〵。そのさづでざんさま宝
さどゝも。ゆよいゝとゝろいなゝさ玉うそ
とおつれなれしの。ゝとりやそのゝ。さんれ
カ子ゆさんよ。ゆゝがやいゝさうのとおきう

るんしさう人宝イエ。ゝとゝろがなんもいゝや
せん玉ゝとゝろをつけていのゝ。おめゝさんのゝとゝで
ざんさま宝されゝどゝどゝろけう玉おゝ
なんさうよ。ゝとゝろがあゝゝゝ。ゝゝ同るかけの
ゝゝう。ゝゝのゝでざんやう孫宝アイマアア
そんるのさ玉ゝとゝろやア。おめゝさんの
ゝとゝとゝゝく。ゝゝいさう宝ごゝゝて
玉ゆゝのまゝ。ゝゝあゝがなんさゝゝあんゝゝ

月さうらうが叔母さんのところへもよくあいで
なんしさうら 宝 そうさぞそれで来れさおいら
もぜんてへんさようふぐてありつさうらうへいろく
さうらうらうせんりへていさのさがるやどがおめへ
のおだきさんのところへもいそがせさぞぶんい
うらうおめへのおいらへおとうさんとうへいろ
けの 玉 ようくおだへてお出なんをよりあ〜〜
此おいらんはおいそうおめへはうらのくむさをあるよてふさ紙
はとられておだのりさよてそそられしてちおだしくのおれい

この宝こうぐきんちうよりおいらうふぐ
よりうらうふりーめあるうこのおいらうんそのちだの方よてそそられ
ゆへ宝こうぐよ
えちつていらう 宝 こいつァ如くおめへぐてる居い
ようよりへおのひもはうわへとのうさぐ色
これもおめへのてろぐぐろふさ 玉 ぬま
こういふ身よおろいつさもぐんく見け合
のあってぐんさようんどてろ孫へおうて
月ぐうの孫んでてろへあういうてうのよ
来年の七月ハ孫んがあきいさ

たろうはひつうろうてあれども
わんさとどくいさ、れもまぶ
どさぐ、ぐ、ぐ、

よひとゝろへ。ぐげすやく舞まへ。あつさうけが。
今ごやア井ど。ちうまなかつていアな 玉ウム
そゝ。ゝて。ゝとろちゝがうゝまねなんゝ。ソレ
犬ゐのち 犬ゐさんゝ 定 ゝゝあのつむりのまんゆま
大きゝる。鼻。桜のあゝる。伝。るゝいゝゝ乃
掛ん。ゝうアりやア。ゝゝ。ゝ。ゝ。

あらいさま。おめくさんがこのわらべめくてい
をこの。せをとしておらんなれし 定 りりゃア
おいしがこと五人きるさるがい 玉 おあうがこう
おざういさま。おりめくさんのとこのおまんまで
もうたいしゅう。ぞよぞそせておらん
なんし 定 りつてく孫へ十二そんなとさせる
のんご 玉 それざしつてゆもせぞよいし
ちゃア。おりめくさんのおうこさんはきうまい

しゅう 定 十二おいしゃアまざ。そんなものいはし
さそれざう。おりめくさんは知らうぞ度ぶ
しつもあんまうむしがいのトはきうまいきうまいなし
ざみおそよつけとそ 玉 ユンナ。こちうれで人どうれ
ざくまちりよりて
ぐしせなんまへ。あ人のうせでおざういを
ぶりしていをりのとおざるしあんまへ。ん
よ五でおざういを 定 十二月ちしゃアおりめく
ぐことごまをとう。おとうきへざうや

せん 王 おやゝさんもゝんぐさまがあんなん
きそうさんがおさきるなんでこそもひきー
ぶうでそうきおやゝるあうつうさんでも
ぐんさこあのでおめゝさんのおとうるもちう
ぎこぶりきるこうあいこれいせんがやん
とうこまそうおりておこんなんきう。
今うこうおゝさんのせ房でぐんきこうう。
りゝ。ゝおいでなんきこうきこいせんきゝ

定 ゝりやあちゝぐゝこれうゝおりゝの色男
とうぞせうふやあなゝ孫ゝぐゝつてんうゝ 王
ナニ且てこうこうあそんなりのハおざりのせん。
あてなぜそうもゝおようんなんきそそて学と
おゝ紀なれしな。こうあおやゝさんのせ房の内
でおざうつきそうるうんあきよぐんゝトちうくさんは
やうんのきこうゝりゝ且つちやあれこ男ゝやあ。ち
くひつゝこうゝ。ゝぶんゝてきこうなんしトちよ

のちくまつるかんさおかわへさんが。まへがみ髪のあんをん
しこ附かゆや。とんごうへいしろてを用ち
くつ。ちつておろいしとめとこちもやア
さるれいをそどやアおざんせんくつ。ぢろいお
ゆんとまれてぬぐごをておせなれし 図
おめへもを附ちゆやア。でぶちせだなさちのと
ぐ。ぜんてへ。拵ぬぎだのちくごろつ。ぢんがをん
なこいなさるやも。新つくり作がうまい

とちふぐ 図 ヲヤコロつちロア。ぢんなれしどロアおざ
ていせんそれもちろうごろうなんをちくつ。どん
ちてでもいくーいさ。命でもあがへをちくつ。
いつそころておろんなれし。ョコトくぶりついて
ふりかをりてなぜこんるつ。まるよコをせなれしこ。コ
のよろいつのよトよ。ちいとどろとひろりぶ。ぶいち。ぶの
つれてあるき 図 ちくさんどくつ。ぶいちくぶ。ぶいちくぶ。ぶいちくぶ。ぶいちくぶ。
ちくさんどくつ。ぶいちくぶ。ぶいちくぶ。ぶいちくぶ。ぶいちくぶ。ぶいちくぶ。
リア。そんなこと西いを代紀よあるの。山城のちよで

[illegible]

[illegible]

[illegible]

色べつそいるようなるりんで弥つ〳〵つまゝあくの
玉ッリャアそのぎくさんも。そないろをおんだく
ゞ見るいくいちおれてろけゞこなれしこゆ〳〵。
わりやアおさとしらいでおきのどくぶね 青ナニサ
それぞこうて殺ろうて殺ろうて殺をとる。ろうちゞもね
いく〳〵。こんるやるあゝせるのゝあつちの目ゞきく
弥へとりのさゝんのこうこゞろうちゝア。蒔
のうちの蒔ゝゞやアゞ弥へゞ。そこゝてん弥へけ

アやアゞ蒔へのこれ弥へとりゝ男ゞこゝ少ゝ作ゞ
弥ゝうゞこゝうゝはされてる。女ゝ流の服ゝ戸
ゝこゝ弥へゞこゝ。弥ゝ台ゝ人ゝのきゞでも。ゝ利
のひゝうゞで。色男ゝ〳〵ゝとゝこゝゞあそんゞ
ゝゝうゝゆアゝ。そこゝまゞで弥生ゝ吉きせるんゞア。
作ゝちゝこゝと昆布のようる。ちゝめんゞゞてゝ
こゝりんこゝゝ。蒔てゝおいこゝ移へゝゞこゝてゝのの
ゞ。今ゞゞゞるゝゝ。ゝむくの下いこゝ。毎こゝ

こぶでもたたきてアヤ世ゆきてこのちんぢうのまきとことも
つるこゆべきれてこの　今うだやアちゑでも孫へ〻三三
せすまとこえまらゆり　孫人あこらまぢやアぽんは一日でもぞうぞう孫の
こここ　ろこと。ふま孫へりやアこの孫へ男よ
トむこゆこまこゆぐふこうもこうのゆくまきいてられバ
きいやこきやべるゆおいりんこぢことまつけてせのこんがこ
へこうこぶ〻ぶこうのこうとむいてぶこうとこうわとアヤヨセ
ところこうこうる。せいこいいむちここうこうこおりこんがきこるのあこ
さたこまちぐでこうこびのこうこうこうまこぐいこうのんぢこうアこ
こここうまこぐおこうこうあこうこ

玉ヨヤどふなれこトあここうこうこ　青おいここうこ

こぶせごこうぎこまけどこさせぶ。こぶ。まぶぴい
つこい定ゆここふる国こんゆこておこんなんん
青コリヤア　こんヤアどこんこまいつこもぶこぶヤアこ
孫へりふここふやこうやしやこ国りことおこ国
なれこな青イヤおぢやこまるなこもきのどこぶこ
トここ玉あこふよヨヤこきこの目こい。鬼物とふん
ゆこぶこうこうこんづけ
づけこトここうこうこうこうこるこんぢ
こここゆこゆこゆこおここでこり定こんどんのここ孫
こぢこうこ。サアおここここここんこうこここちここんん

ちゃ〳〵国おとゝぎあやまりいを定るぜ
いるぶぜ国おとゝしいのかトよどとまろろ
ゆ〳〵こ国巧ゝ今色ふゝてんと或ぶ仏
堪のなまハ難ゝ化ゝまあの情チ
ゝも難ゝ女全きれどゝ世よる勝
の鼻ゝるゝも低ゝも色男のゝる
ゆちゝて尻の去まゝ角の仕舞と
ちけゝ〳〵郷まるの弟ゝいあゝで一条

と安書ゝ書ゝきゝきゝぶけせちぐゝこ
き者の中ゝ仏合ゆ人のなゝぶぞや

第三章 早

客言代名 日ひゝうぐきよだんゝてゝそゝうゝぶ。
の大ゝろゝぶゝさぐゝてゝろゝさゝゝうゝさのあゝるゝ大ゝだゝち
ゝゝろゝへゝあゝもゝおゝるゝじゝくゝゆゝゝうゝて 古助 ひゝゝねのゝゝさ
ちゝゝまゝきゝゝうゝてゝさぐゝいゝよゝてゝきゝれゝさゝ者ゝゝゝいゝとゝろ
てゝるゝトゝ月ゝちんぞゝうゝあゝゝさゝぐゝてゝちゝゝ

新世ぞ おゆゝしゝなゝゝ
ゆゝろゝとぐゝるゝと
るゝゝゝちゝぐゝす 音 あのゝゝよゝぐゝゝゝうゝそゝゝとゝゝゝて

まどつ〳〵ぬぷしの付まいつぐ。ゐるづちろ
あこまでも。あつこそこそいすんぐ 丙イヤ
うけ合ゐるのゐちがひわ〳〵でたぐよ。あべ
とまるといふ。まつこもある 壬コンナみどりゃ
まめ〳〵さろひのいる 癸 そ〳〵おきいこ。
壬 それでもこれ孫〳〵ぎわつてこまごのハト
ちとりぶ出てり 青コウあのるぷいまぐぐぐ
とちころとよんできそうな 癸アイルトへんぐ

丙 ちろこらとのとびつけてぷつておちゐ
さるぐぷ。あんまくりくとだらゐ〳〵こそぐ 青
イニヤヨ如〳〵貫〳〵こぐのろちゃぐまろてゐ
ても。今ゐあつちろ。あつまつてるとゐよ
しくせとぷこぐ所。信。とまく伝ずの〳〵。
赫〳〵の所ゐ〳〵ぷ。ぷ孔ぐぐたろを
さ立てゐさろ。如ぐゐる 丙 ちてゐトゐ
ちろと 若 おとびゐ。ゐるちとぷ。ゐるてぐぐろ

ゆきとろ 青こてごく。コウ おぎやまごろくぐ。ちろと
おくこのきをーぐぐ。今一ぱいのまうとまりとと
ぐぐ。ゆきを者が殺ぐ。さるぐ。なんぐちよびとし
とゆつぐ。ろくとひらいろぐいろぐ。ぢとうひて
うんわくトアところろきをろひのかがくろのあきとあく
きんぐーぐるの 青りこまうゆーとぐとうしくく
かれつきるう 青こりやアあうゆきを 青呂今火もあげやきうコリヤア
附ぐおいーくんいどくくいうきろとゆ。おうとしう

ごきうきやきうゆハ〜トあ孫つくくうくくトあ文
きす。たくゆ。ぐきやし。ぐ五ぐのくあくきるくぐきくし
ても南ぐくうきろのあるくぐくぐくぐうのく。
ぜひきゆうが。ごきうちちアいやせん。今きゆう
ぐろうくゆやアい。ぐぐぐくもあうちぐとと
ら死きをハ 丙かるうぐ。コリヤア 如久人極楽
のところぐトは内ぐ五ぐのあるぐいきのいきのいうゆうぐ夫とこんぐ
とやくこーぐきうくゆやのきんくんふきるまぐのきびくく。
ぐきびくとくくゆとぐきくこぐいこうーくいあうてぐろうと

[illegible]
[illegible]
[illegible]

くくゝァるんご 因 ソレサ せんぢろ あるゝゝぺぉゝあゝゝ
ゝゝゝたゝゝく町の角やゝゝ。 出来 ぢん ちん 秀ゝゝあるゝ白ゝゝ
そうげん 地獄代ゝゝゝゝゝゝゝ出来ると。ゝゝゝゝゝ合 さい
ゲゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 其いぎゝ ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とぐろふらさげてんのさもちうくどうるようなて
ヨろうい　ト時分ニテわるくわまるのでけ　定　ヨ　おあるやうご
太　イヤおめへ　今のだけのごうご　定　さろきん
のいしもぐへくまきろんのおぢやまとし
ようふとおもつてさ　ト決だちのたぐくまりるとぐそのきくもぐニテがヨルくまりり
真　おりさんいへ　定　ふんどうりへのてぐ今いびた
さいちう　真　うそとちつたなん　定　うたどう
ぢへ　ト　ちりヨろちやァちゆちくらされて。

いくらひぐとんくくちつこちろぐ。おれやせん
ト　ちるくしのうちは　注ぎ　ていらに
玉川ぐどろとさろつて　定　ニ　ト　と　ひつと　記　国　よくいろく
るとくとおろやくくくこの　定　コレ　ぐまとろれてく　国
あやきろやれてさろく　青　おいろんでぐぶお
むつまうぐいの　太　あやくるようなぐさん。ぐう
あげようの　定　ほいはれめん　太　テモひとろ　ニト　むろうく
ぐさこうろをとちろあて。ぐーロのむ。　真　ひりへくさ有ハ。玉
玉川さろぐれどろろてぐろとはき
川さんぐ。ろそおろうれきうぐさんきとろさ　定

なつやぜん 真 おめくさんへひさーいぶりぢんぢ
さとりのとトるものよりまを玉川がさをしてゆくくハらよるり 青 ヲヤ
なつぢぞ。おいくふやァぢんまくでトちきよ
定 十二なつぢぞといハトいくそふまをると玉川きやくの
ちうぢさをうちりてらるもぢ
定 コウいくく 玉 いさこ川でもるくちがみまぢやァ
なーぷるいまをりのりトのつりくてつゆるやぢくく
おさをけんぢーくつと やいちやつくとやいくらいと
ありくよりんをいるぢく 青 りふさけものわね 太 平
いまくしいとそぢ 青 財よりよをりぢろふ。おを

りくへろくまぢやァ孫へろ 太 りくりやせう。宮さんへ
どのなさる 玉 宮さんハぢうゆとうと去なんを
しき 青 うてなまをるぢいく 定 十二月のくまを
みりくりやしやう 玉 ヲヤおめくさんへさんきあ
まをもいよくおくろせくしこぢやァおぢん
せんくおりくへヤとこさァるりいせ八 青 宮さん
へいるぢいく。おいくアりくる 定 それでもいぢやお
りくるまでお出なされべいく 真 手ぢよふお

ぎんさと 青 よくてもいるくてもやぐそ(よが)
あけしあ。たそうとぶ出してうんわ(ト はうう たやた)
はけいえとうと ひつかてきたり 内 サアしく出ろうく 玉 ヲヤかん
とうこぶ。ふおんくいなんさとうく 定 ぐふぐでも
おいしひとう。ぶつきちやアコるいい 玉 コるろう
てもぶるちぐいうちふあしてといさと 定 おかい
きうふおやたぐ 玉 おせへぎろアおざんせんコろう
ちぐ出ろ人ぎんとものとぐふとるもるちぐ

ちてくふるいさしいきうう。そふおのりてお
出やんしトそのぎくいづうぐうりりるもふるとおろうて
たてくりりくれたうてたうごと
ありうく 玉 其 ふうお出やんし 考の これおう
ようどざりまを 三人 アイトうさみぐうと
はうくりでいたりん あけてうふいぐうく
ちうくもきぎきて 青 ぶをハしうう 内 どふな
ちうさ 青 ゆうんのやくろうちうんぐーと。
コうとれてきさトうう
俳句。えどうとうのハ。ぶとぶ

とゝて尊びわざ。絶とこゝる。弟人へ。
是と云ふ。さんゝて又わりの出来
情ゞ孫の下の拔出の袋より落れ。
某年十五歳とまり。袋のこぼ
まで。差りのよせ。やらぬ。内主
鼻のさゝ人。名ゞ。とるよまつて。公の
孫の鼻。年終の庚信と矣。
彩色の屑ゞ。動るこゝと。出る。こゝな

袋の縁をつゞて。芋を。尾。尾とひつ
て尻のさゝらね。絶れ。孫。孫と。後合
して。こゝとさゝらよ。強出をゞ。さの
出ふもゝ。ふゝの袋。五尺のかゝゞ。絶も
二尺ふす。ふ拭とりて。おゝひこゞゞ。
みゞつゞみよ。出るゞ。性。招出
でも。なんのおゝ出でも